

## 第3章： 人間開発への最良の投資 “子ども”

ユニセフに委任されている活動の中心であり、同時に、より広範囲に達成すべき人間開発の中心となるのは「子どもの権利」である。人々が長年にわたって、健康で創造的な人生を自由に送ることができれば、活気に満ちた社会が生まれる。子どもは、こうした開発ビジョンの基礎となる存在である。子どもへの投資は、有益な経済的、社会的還元へとつながるといえる。

ユニセフは、世界中で、その支援プログラムを通し、すべての女子と男子が、栄養不良に陥ることなく、健康で、教育を受けることができ、あらゆる害から守られ、自らの人生に影響を与える事柄を選択できるよう、国々を支援している。2009年、ユニセフは、世界的な景気後退の中、すべての活動の前線で前進を遂げた。

### 出生直後を生き抜く

ユニセフの仕事の柱となっているのは、母親の妊娠期から、子どもが1歳を迎えるまでの間、小さな子どもたちが生存し、成長できるようにする活動である。この時期の子どもが、健康を損なうことがあったり、十分な栄養を摂ることができないと、長期にわたる精神的、身体的な影響を受ける可能性がある。ユニセフは、適切な栄養、予防接種、質の高い保健ケア、衛生的な水と衛生を通して、5歳未満児の死亡率の低減を目標とする事業を展開し、疾病の減少に寄与している。

保健制度とサービスの改善は、子どもと妊産婦の健康を促進するのに重要な要素である。ユニセフは、エジプト保健・人口省とパートナーシップを組み、生活条件の悪い4つの行政区域で、地元の保健員の能力育成を図り、小児・新生児診断に関する技術の強化、子どもの保健と栄養に関するコミュニティ情報システムの作成にも力を貸し



ている。地元の保健施設からのデータによると、2007～2009年の間に、より高度な知識とサービス内容が改善されたおかげで、保健施設の利用率が27%向上し、5歳未満の子どもの死亡率は低減した。さらに、家庭内での子どもたちの食料摂取習慣が改善され、栄養不良の子どもの数も大幅に下がった。

5歳未満児の半数近くが発育不全状態のインド。ユニセフは、発育不全の割合を削減することを目的とした国内基準の全国普及を支援した。これは、特に社会的に排除されている人々の子どもを視野に入れたものであった。マディヤ・プラデーシュ州では、関係する地元のすべての役人が、この国内基準についての研修を受けた。子どもの発育を測る体重測定—発育不全を見つけるのに大事な手段—は、マハーラーシュトラ州で、2008年の65%から2009年には85%にまで伸びた。

発育不全の割合が高いもうひとつの国はマダガスカルである。ユニセフは、マダガスカル政府を支援し、発育不全が多い都市部に栄養センターを設置し、5歳未満児30万人を対象にした大規模な国内栄養プログラムを展開した。キルギスでは、

## ソマリア：適切な支援物資があれば栄養不良率は低減できる

ソマリアでは、長く続く紛争と統治システムや公的サービスの欠如のために、人道支援は困難なものとなっている。子どもたちの栄養不良を防ぐ支援物資を送り込むために、ユニセフは、税関の通過から輸送サービスまで、地元の倉庫やパートナーたちのネットワークに依存している。

2008年12月、ユニセフがソマリアの子どもたちのために、プランピー・ドーズ<sup>®</sup>（プランピー・ナッツ<sup>®</sup>に似た栄養補助食品）の大量配布を始めたとき、支援物資が本来の目的以外に流用されてしまわないよう、特別な管理が必要であった。この最新版の栄養補助食品には、高品質のタンパク質、脂肪、ビタミン、ミネラルが含まれており、免疫力を高めることで、子どもたちを疾病から守り、成長を促進することが可能である。食べる際に（溶かしたり、薄めたりする必要がないため）水が不要で、雑菌が混入するのを防ぐことができ、保管や輸送が簡単である。配布が始まってからというもの、地域によっては、急性の栄養不良の増加に歯止めがかかったり、状況が改善したところもあった。

国の内戦と干ばつが重なったために、栄養不良の状況は相変わらず緊急事態の域にある。東部・南部アフリカでは、5歳未満児の8%が、中度から重度の消耗症を患っているが、ソマリアの子どもでは、これが13%に跳ね上がっている。そのほかの国際的な統計によると、ソマリアの5歳未満児の急性栄養不良はさらに高いと推察されている。治安の悪化によって、栄養不良率はさらに悪化し、子どもたちから食料だけでなく、安全な水や保健ケア・サービスまでも奪っている。

ユニセフは、栄養不良に陥りやすいコミュニ

ティにいる6～36カ月の子ども13万人に、プランピー・ドーズを提供した。この栄養補助食品は包括的なプログラムの一環として提供されたもので、そのほかに、安全な水を作るための浄水剤、下痢性疾患の脱水症状により死亡するのを防ぐ経口補水塩（ORS）も提供された。プランピー・ドーズ小さじ3杯を1日3回、ほかの食物と一緒に採ることによって、栄養を十分に採ることが可能となる。

ソマリアの北西部にあるジャマライヤ避難民キャンプで、ユニセフは500世帯にプランピー・ドーズを提供した。多くの人々は、干ばつのために子どもの栄養不良率が特に高くなっていた海岸地域から避難している。そのひとり、コウサル・ジャマ・ミレさんは3人の子どもの母親。飼っている家畜がすべて死んだために、このキャンプに避難してきた。夫も仕事もない彼女。「子どもたちを養うには、食料支援に頼るしか方法がないんです」と話す。「もともとたいしたものを持っていませんでしたが、すべてを失ってしまいました。」

栄養不良を防ぐ手段としてプランピー・ドーズは使われており、重度の栄養不良児に対して、ユニセフは、RUTF（すぐに口にできる形の栄養補助食品）を提供したり、技術的な支援を行っている。これらの支援は、コミュニティの保健センターやソマリアにいる移動保健チームを通して提供され、食糧農業機関（FAO）、国連世界食糧計画（WFP）、保健省、36の国内・国際NGOとの協働で行われている。効率的な作業分担のため、ユニセフは「重度の急性栄養不良の減少」を主導し、国連世界食糧計画（WFP）は「中度の急性栄養不良の管理」を支援している。

発育不全の割合が高いひとつの州に焦点をあてた。ユニセフが支援して立案されたプログラムでは、対象となる子どもたちの98%に微量栄養素が提供された。現在キルギス政府は、新しい国家戦略の一環として、これを拡大している。

栄養不良—不適切な栄養摂取を示す体の状態—は、開発途上国の多くで見られる。世界では、約2億人の5歳未満児が発育不全となっている。世

界的には、5歳未満児の死亡原因の3分の1以上が栄養不良と関係している。これはユニセフが2009年に発行した報告書“Tracking Progress on Child and Maternal Nutrition: A survival and development priority（母子の栄養に関する前進：生存と発達を最優先に）”でも焦点があてられている。この報告書の調査結果は、世界食糧サミットを含む、食料確保についてのハイレベル会議でも注目を浴びた。

# 人間開発の目標に向かい努力し、国連憲章に掲げられた平和と社会的な進展のために努力する——ユニセフの使命

## 健康なスタート

ユニセフは、保健サービスへのアクセスがほとんどない農村部の子どもたちを含む、大勢の子どもたちに保健サービスが提供できるよう、被支援国でのパートナー組織による「保健週間」の実施を支援している。その際、通常子どもたちは一度に、予防接種、栄養不良検査、栄養補給剤投与、虫下しの投与を受けることができる。同時に、親や保護者たちは、衛生について学んだり、HIV検査やカウンセリングを受けることもある。2009年に、ユニセフは、南アフリカ初の「全国子ども保健週間」実施の支援をし、ビタミンA補給剤、虫下し、追加予防接種、成長観察を支援した。合計330万人、1歳から4歳までの子どもの81%にあたる子どもたちが、このサービスの恩恵を受けた。保健省によると、以前は、ビタミンA補給剤の提供を受けた子どもの割合は39%にとどまっていたという。

ユニセフは世界ポリオ撲滅イニシアティブの主要なパートナーであり、ポリオ感染が未だに残る4つの国、アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンで、積極的な支援活動を行っている。2009年、ユニセフはアフガニスタンで、公衆衛生省と世界保健機関（WHO）と協働して、現地採用のスタッフと保健員を動員し、750万人にポリオのワクチンを投与した。地元の女性たちに対する研修を実施し、ポリオの予防接種の重要性について、コ



ミュニティのほかの女性たちに伝えてもらうことにより、キャンペーンの間に予防接種に来る人の数が増えた。ナイジェリアの長老や宗教指導者たちに向けた継続的な働きかけにより、2009年のナイジェリアでの子どもの予防接種は300万人にまで達した。従来からポリオの症例数が一番多いナイジェリアの北部の州では、発症件数が今までの最低を記録した。

ほかのワクチンも重要である。タジキスタンで、国内予防接種のスケジュールに初めてはしかと風疹のワクチンが組み込まれたことを受けて、ユニセフは2009年に予防接種の大型キャンペーンを支援した。これにより1歳～14歳までの子ども、220万人が予防接種を受けた。政府は、ワクチンのために公的資金を今までより30%多く投入することに合意し、予防接種率は今までの最高を記録した。イラクでは、3万症例に達したはしかの流行を抑えるため、ユニセフは緊急予防接種キャンペーンの実施を支援した。4つの県で、5歳未満児60万人が、10日間のうちに予防接種を受け、その後の症例を2件に抑えた。ブルンジでは、ユニセフがワクチンを提供し予防接種を支援しているが、2008年と2009年に行った調査により、新生児破傷風と妊産婦の破傷風の新症例がないことが分かり、根絶が宣言された。

## エイズから解放された生活

ユニセフのアドボカシー（政策提言）活動により、HIV/エイズの根絶が国内外の努力の中心に据えられるようになってきた（14ページの囲み記事を参照）。エイズから解放されて生きる子どもたちの世界も今や想像できるようになってきた、と2009年にユニセフによって出版された“Children and AIDS: Fourth stocktaking report（子どもとエイズ最新情報 第4版）”は言及している。2009年は1年を通して、HIVの母子感染防止に国際的な注目が集まった。世界エイズ・結核・マラリア対策基金（GFATM）との協働努力の結果、妊産婦のHIV感染が一番多い10カ国で、活動を促進するための資金が急増した。

## 南アフリカ： 母親から貰ったのは HIV ではなく、「命」という贈り物

南アフリカは、HIV感染率が一番高く、エイズはこの国の人々の主要な死亡原因となっている。系統的・包括的な支援がない場合、HIV陽性の女性の多くは、出産前、出産中、出産後にウィルス子どもに伝えてしまう。国連エイズ合同計画（UNAIDS）によると、おとなのHIV感染率は落ち着いたものの、公的な保健サービスにアクセスしている妊産婦のHIV感染が低減している証拠やデータはどこにもない。2008年に、検査の結果HIV陽性だった妊産婦は29%以上であった。

これらの統計を見て、ユニセフは、南アフリカが「2007-2011年HIV/エイズ国家戦略」の作成を進めている間、HIVの母子感染防止を強化するよう求めるアドボカシー（政策提言）を盛んに繰り広げた。その結果、計画の中には、女性と子どものHIV/エイズ予防とケアが組み込まれ、2011年までに母子感染を5%以下にまで下げることが目標として設定された。国内のガイドラインも改定され、薬剤による包括的な治療が盛り込まれ、検査提供者の側からの積極的な検査の呼びかけや、より早期の乳児期診断が盛り込まれた。

以来、ユニセフは、南アフリカ政府が計画を実行に移せるよう支援し、即時的な効果が期待できるサービスを拡大した。コミュニティの保健センターを通しての、母子への積極的なモニタリングは定期的なものとして根付き、乳児のHIVを診断できるよう、新しい装置も導入されている。2009年までに、すべての地区と病院、基礎保健

ケアを担当する施設の90%以上で、直接あるいは紹介で、母子感染を防止するための総合的なサービスを提供できるようになった。英国国際開発庁と、「米国大統領のエイズ支援のための緊急計画」のおかげで、ユニセフは16の地域で（うち14地域では母子感染率が高い）、母子感染を低減するための地区計画の作成を支援した。国内では、HIV陽性の妊産婦の4分の3近くが、HIVの母子感染のリスクを抑えるための薬を受け取っている。政府の2009年中間評価によると、抗レトロウィルス薬を必要とする15歳未満の子ども約10万人のうち3分の2は薬を受け取っている。

今日、南アフリカは、国連の画期的な会議「2001年HIV/エイズについての特別会合」で合意したように、2010年までに母子感染を半減するという目標を全体的には達成できるところにきている。2009年に発表された新しい政策では、薬剤へのアクセスをより容易にすることで母子感染率をさらに引き下げようとしている。また、新しいサービスの導入を促進することにより、人々の利用も増えつつある。そのほかのイニシアティブを補完するため、ユニセフは広告企業のSaatchi & Saatchiと協働し、HIV/エイズに関連する差別に立ち向かい、保健ケアについての関心を引く、広告キャンペーンを展開した。国内では、推定1,900万人にこのメッセージが届けられた。クリニックに、より多くの人たちが来れば、より多くの若い命が南アフリカで救われることになる。

モザンビークで、ユニセフは2009年末までに、HIVの母子感染防止のサービス拠点744カ所の半数近くに支援を行っている。ロシアの4つの地域では、HIVに感染するリスクが高い妊産婦や母親たちを対象にした、包括的な医療サービスや社会福祉のモデル例作成にユニセフが関わった。その結果、母子感染率は、全国平均を下回った。

HIV感染を早期に診断することによって、乳児の命を救うことができる。ユニセフは、東部・南部アフリカにおいて、HIV感染の恐れがある乳児のフォ

ローアップ・ケアを改善する努力を支援している。スワジランドでは、早期乳児診断に対処するため、ユニセフと国内のパートナーが力を合わせ、2009年に初めて、地元で臨床検査を実施した。また、このために、保健員に対して小児エイズへの対処法に関する研修が行われた。

ユニセフは、2009年、ユネスコ（UNESCO）が初めて発行した“International Guidelines on Sexuality Education（性教育のための国際的ガイドライン）”を支援したが、これは子どものHIV感染を防止する

ための重要な新しいツールである。このガイドラインでは、子どもたちをHIVから守るには、教育者たちが何を知らないか特定している。長きにわたって提供されているライフ・スキルのプログラムは、多くの国々—例えばコンゴ民主共和国—で若者たちにHIVへの注意喚起を行うものとなっている。2009年、ユニセフの支援のもと、6,600人のピア・エジュケーター（同年代の子どもたちに、必要な知識を提供する子ども）たちが、自国の50万人以上の若者たちにライフ・スキルを提供した。

## 衛生的な環境が生存につながる

きれいな水と衛生は、子どもが生存し、健康に育つのに必須である。手に入るかどうかの次にくる問題として、水が原因で生じる疾病を防ぐために水の「質」が高くなければならない。不適切な衛生は疾病を広め、水の品質を悪くしてしまう。その結果として起こる病気で一般的に知られているのが下痢である。ユニセフと世界保健機関（WHO）が2009年に発表した報告書“Diarrhoea: Why children are still dying and what can be done（下痢性疾患：なぜ子どもたちは死亡しているのか、何ができるのか）”では、下痢性疾患は、予防・治療手段があるにも関わらず、エイズ、マラリア、はしかを合わせたよりも、多くの子どもたちの命を奪っていることを強調している。

これらの問題と闘うには、意外にも、手洗い、基礎的な衛生施設（トイレ）などの、簡単に効果的な支援から始めることができる。カメルーン、モザンビーク、セネガルなどで、ユニセフはコミュニティが主導する衛生プログラムを先駆的に始めたが、これは自分たちが使うトイレを自分たちの力で建てて、維持する方法を学ぶというものであり、これを通して、人々の能力育成を図るというものである。シエラレオネでは、ユニセフの支援のおかげで、2009年には、169の村が「外で用を足さない村」を宣言することができた。また同年、すべての地区保健計画が改定され、コミュニティ主導の衛生プログラムが組み込まれた。

パラグアイでのユニセフの長年にわたるアドボカシー（政策提言）活動のおかげで、中央政府は、半乾燥地帯であるチャコ地域にある、少数民族のコミュニティの水と衛生に関する事業のために財源を



割り当てた。ユニセフは、地元の女性たちが家庭に設置する浄水装置を作るのを支援した。この浄水装置には、バクテリアを除くフィルターが使用されており、また、伝統的な陶芸が用いられている。同じ地域の5つの少数民族コミュニティは、2009年に、中央政府に意見を上申することができる衛生委員会を設置した。

リベリアでは、ユニセフ支援のプログラムを通して、20万人以上が新しい水源、あるいは修理を施した水源から水を引くことができるようになり、185の農村、あるいは準都市部のコミュニティで、家庭内浄水・保管作戦が導入された。政府は、「国家包括的水源管理政策」を2009年に承認し、「水の供給と衛生政策」が進行中である。

## すべての子どもに質の高い教育を

現在ではより多くの子どもたちが、初等学校に通っている。しかし、教育の質の面ではまだ課題が残っている。まったく学校に行っていない子どもたちの中には、貧困、ジェンダー、紛争などを原



因とする根深い構造的排除を受けている者もあり、彼らへの支援の提供は困難を伴う。すべての子どもは教育を受ける権利があり、ユニセフは、これらの差別的な障壁を取り去るプログラムを支援している。

ユニセフが積極的に推進している「子どもに優しい学校 (Child Friendly School=CFS)」のモデルは、質の高い教育へのアクセスを拡大するために展開されるユニセフ支援活動の主要な方策となっている。CFSでは、子どもたちが安全で、秩序ある、保護された環境の中で学ぶことができる。研修を受けた教師の指導のもと、子どもたちの権利は保障され、それぞれのニーズが尊重される。CFSのモデルがいくつかの地域で試行されていた中国では、2009年、全国的に展開する予定であることが宣言された。

ミャンマーでは、2008年のサイクロン被災を受けた学校の再建時に、ユニセフの支援でCFSのモデルが導入された。19校のCFSが2009年に完成し、さらに30校が建設中である。新しい学校の建設工事は革新的な方法で行われた。ユニセフの支援によって、品質を維持しながらコスト削減ができるような、地元の環境に合った技術が採り入れられたのである。既存の学校のうち、25%の学校が水の供給を受けることができないと推定されており、ユニセフは水を供給する支援を行っている。また、教育のアクセスと質の格差を捉えるためのデータ・システムの開発を支援している。

東部カリブ海地域では、学校での体罰が社会的に

も、法的にも広く認められてきた。CFSプログラムの一環として、ユニセフは、教員組合と協働して、「より良いしつけの方法」がとれるよう、バルバドスでのパイロット支援事業を始めた。これらの効果が確かめられたために、この手法は拡大されつつある。2009年までに、同様の事業が、アンティグアバーブーダの4分の1の学校で展開されるようになり、教師と行儀の悪い子どもたちとの間では契約が結ばれ、体罰以外の方法で問題が解決されるようになっている。これは、ドミニカやセントルシアでも展開されている。これらの4つの国の半数の初等学校では、2010年には、「より良いしつけの方法」が始まるはずである。

## 子どもを守る

子どもを暴力、虐待、搾取から守るには、政策、機関、司法メカニズムが、互いに補い合うような、しっかりした制度が必要である。ユニセフは、このような制度は、子どもの権利を支援する社会的な姿勢を背景として、つねに子どもたちのために有益でなければならないと主張している。これについては、2009年に発行されたユニセフの報告書『子どもたちのための前進：第8号 子どもの保護に関する報告』で多くの情報が提供されている。

2009年、ボツワナは子ども条例を承認し、大きな成果を挙げた。ユニセフがこの法律のためのアドボカシー（政策提言）を担当し、子どもの権利の積極的な推進のために、この新しい法律がしっかり根

付くよう技術面で支援した。この条例は、教育条例、相続条例、刑法を含むほかの法律の改正への動きとつながるものである。

子どもを国内の社会保護制度の中に組み込むために、ユニセフはネパール政府と協働して、生まれてから5歳になるまでの子どもたちへの、助成金の支給を導入した。この助成金は、栄養不良率が一番高い5つの郡、そして全国中に点在するダリットという、排除されたコミュニティの子どもたちに提供さ

れている。ユニセフは現在、将来的に、この助成制度が全国的に拡大されるときに準備として、国内のパートナーのサービス提供能力の育成とモニタリング力の改善を支援している。

不十分な出生登録は、大きな格差を生み出し、子どもと家族の「市民としての権利」や「政治的な権利」への窓口を閉ざすものとなり得る。モザンビークで、ユニセフは司法省と協働して、移動班とコミュニティを動員することにより、必要とされる出生登

## ボリビア：裁判で証言する子どもたちを守る

犯罪の被害者となった子どもが、今、個室にいる。オモチャがいくつか見える。ふつうならば、当局、警察、医者、弁護士、心理学者、そのほかの人たちからあれこれ質問され、この子はトラウマを抱え込む可能性がある。しかし、ここでは、質問するのは研修を受けた専門家である。証言を見守る人たちはマジックミラーの向こうから見守っている。カメラがインタビューの内容を記録しているが、子どもの視界に入っているのはひとりだけ。それも壁に大きな鏡がある、快適な環境の部屋でのことだ。

ボリビアでは最近まで、こういう状況は見られなかった。社会サービスと司法制度は、犯罪の被害者となった子どもや目撃者の子どもの保護についてはあまり関心を示してこなかったのである。証拠の集め方にも特別な手順はなく、子どもたちは、多くのインタビュー、供述、審議に苦しんできた。司法制度を改善しようとする国内の動きの中で、ユニセフは機会を捉えて、子どもが恩恵にあずかることができるような改革、公平な司法を利用できるような改革を目指した。検察官、子どもの保護の当局者たち、警察、病院、判事、専門的なNGO（非政府組織）とのやりとりの中で、今まで司法制度がどれほど子どもたちを被害から守って来られなかったかという議論を公に始めている。

2009年に、司法長官事務所と協働して、ユニセフは、被害者を守るための7つの特別室に有線カメラ・ネットワークを設置した。ゲセル部屋と呼ばれるこの部屋で、子どもたちは、怖さを感じる公的な裁判所とは違った形で、秘密を守られたまま、より快適に証言をすることができる。検察官、判事、特別保護班のスタッフに研修を実施。

これにより、子どものことを考慮に入れた捜査方法、裁判手順の重要性への関心が深まり、特別保護班のスタッフには、トラウマを引き起こさずにインタビューを行う技術を伝えることができた。新しい資料は、心理社会的な問題を検知する方法、法廷に出すことができる心理社会報告書の書き方を解説している。すべての班が留意協定を採択したが、この協定は、子どもがひとりで正義を求めの必要がないよう、心理学者、ソーシャル・ワーカー、検察官などの専門家による子どものための支援を調整するものである。

研修のために、ユニセフはペルーから専門家を呼び寄せ、ペルーでの経験を分かち合えるようにした。ペルーの「子どもに優しいインタビュー」方法は、中央政府の主導で実現したものである。これにより、子どもに対する犯罪報告の件数が増加した。2007年の257件から、2009年には994件に増加した数値は、司法サービスの対応に対する、一般の人々の支持を示すものといえる。

同様の結果を求めて、ボリビアは、2010年にさらに2つの保護班を増やす予定でいる。これにより国の9つの部署のすべてに子ども班が組み込まれることになる。都市周辺部や農村部の人々にサービスが行き届くよう設置された、7つの統合司法センターのスタッフには、子どもに配慮したインタビューを実施できるよう研修が実施されている。ほかにも、子どもに法医学的検査が必要な場合には、その子に対して人道的に、また十分な配慮をした形で検査ができるような研修も組み込まれている。これは、司法制度がもっとも弱い立場にある子どもたちをも保護できるようにするためである。



録の手順について人々の注意喚起を呼び覚ました。2009年、19の地区で、100万人以上の子どもたちが登録を済ませた。

移住は、子どもの保護の面で多くの課題を突きつけるものである。その多くが、家族との離散の危険性や、学校に通えないといった問題である。メキシコでは、ユニセフが政府に協力して、親や保護者とはぐれた子どもたちを保護するための戦略を立てた。子どもの保護の専門家を移住担当当局に配置することも、その戦略のひとつである。メキシコのシナロア州での補完プログラムでは、教員研修が実施された。これは、移民の子は、年齢に相当する学年に就学していない子どもが多いため、その子どもたちがいるクラスでの授業の調整方法について、教員たちに研修を実施したものである。移動農業従事者の子どもたちは、かつては2年生以上学校に通うことはなかったが、(この教員研修の結果)今では5年生、6年生になるまで学校に通い続けるようになっている。

司法制度下にいる子どもたち—被告であろうと、こう留中の子どもであろうと、あるいは被害者や犯罪の目撃者であろうとも—にも特別な保護が必要である(17ページの囲み記事を参照のこと)。グルジアでは、子どもが犯罪の責任を負える年齢を14歳から12歳に引き下げようとした議会の決定を覆すのにユニセフのアドボカシー(政策提言)が功を奏した。2009年の上半期には、有罪宣告を受けた子

どもの数は、2008年の同期に比べ、3分の1減った。少年司法に関する新しい国家戦略がユニセフと政府との間で作成され、これには、子どものリハビリと社会復帰の方法も盛り込まれている。

## 世界に支援物資を供給

ユニセフの人道・開発支援の多くは、世界に広がるサプライ(供給)ネットワークに依存している。コペンハーゲン、ドバイ、パナマシティ、上海に戦略的に配置したサプライ・ハブ(供給拠点)のおかげで、ユニセフは、緊急事態に即応でき、子どもたちが生命を維持するために必要な治療、食料、衛生的な水、医薬品に欠くことがないようにしている。

2009年、ユニセフは約30億のワクチン、8,000トンのRUTF(すぐに口にすることができる栄養補助食品)、虫下し2億6,000万錠、HIV/エイズに感染・発症した人78万人以上に1年分の抗レトロウィルス薬を提供した。ユニセフの支援物資は、緊急事態に見舞われた68の国に提供されたが、これは2008年に比べて18%の増加となっている。ユニセフは合計100の政府のために調達を行った。この中にはGAVI(ワクチンと予防接種のための世界同盟)、GFATM(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)、世界銀行が含まれている。

子どものための製品を世界的に供給する主要な機関として、ユニセフは、製品の安定供給、価格、品質の改善面で、業界全体に影響を与えることができる。2009年に、世界的な予測システムが新しく出来上がり、栄養補助食品の価格を11%引き下げることに成功した。また、ユニセフ、WHO(世界保健機関)と医薬品メーカーの協働で、以前と比べてより子どもに適した抗マラリア薬とHIV治療薬が開発された。

ユニセフは、また、現場での配送チャネルの改善にも乗り出した。2009年にイエメン北部で紛争が勃発した際、ユニセフは、水、衛生、教育に関連した支援物資をいつでも配送できるよう保管している地元の企業との、強い協力関係の恩恵にあずかった。政府の省庁は、ユニセフと協働し、子どもの保健と栄養に必要な物資を、つねにある程度の量を確保・維持すべく努力している。